

米FOMCは景気判断引き上げと12月の利上げを示唆

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明文で従来通りの金融政策方針を維持し、次回12月会合での利上げを示唆。
- FOMCはハリケーンによる混乱の中でも米国景気の現状判断を引き上げ。7-9月期の米GDPは底堅い成長を維持。
- 米メディアは、連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長にジェローム・パウエル理事が指名内示を受けたと報じる。
- パウエル理事はイエレン体制の穏健路線を支持しているとみられ、慎重な金融緩和の解除が継続される公算高まる。

FOMC声明文は12月の利上げを示唆

米連邦公開市場委員会(FOMC)は11月1日(現地時間)、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を1.00-1.25%で据え置く決定を下しました。

FOMC声明文では、「段階的な金融政策スタンスの調整により、経済活動は緩やかに拡大し、労働市場環境も幾分強まるだろう」との従来通りの金融政策方針が維持され、次回12月12-13日のFOMCでの利上げが示唆されました。

FOMC声明文は米国景気の現状判断を引き上げ

また、FOMC声明文では、「ハリケーンに関連した混乱にもかかわらず、経済活動は堅調に拡大している」と言及され、米国景気に対する現状判断が引き上げられました。

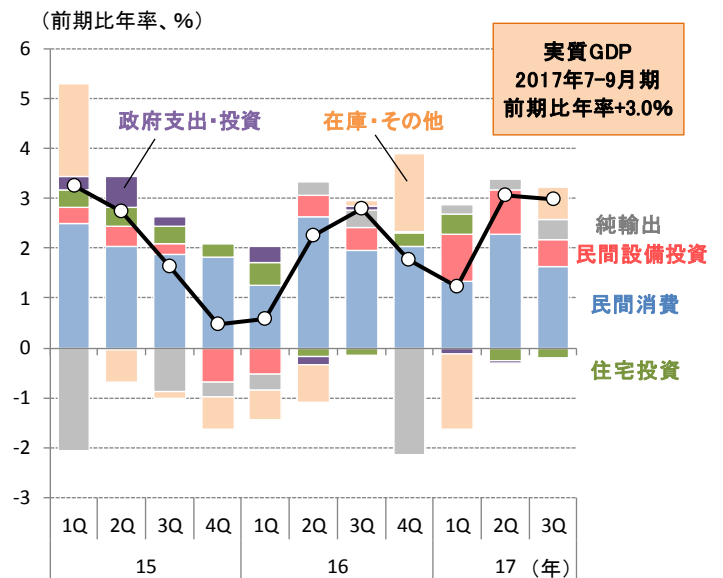
実際、2017年7-9月期の米国の実質GDPは、民間消費や民間設備投資、純輸出などに支えられ前期比年率+3.0%の底堅い成長が維持されました(図1)。また、コンファレンス・ボードが公表した10月の米消費者信頼感指数も2000年12月以来の高水準となるなど、消費者心理の楽観姿勢が強まる傾向にあります。

次期FRB議長にパウエル理事が指名される公算

米メディアは、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の後任として、ホワイトハウスがジェローム・パウエル理事に指名の内示を出したと報じました。パウエル理事は緩やかな利上げを志向するイエレン体制の穏健路線を支持しているとされ、2018年2月の議長交代後も慎重な金融緩和の解除が継続される公算が高いとみられています。

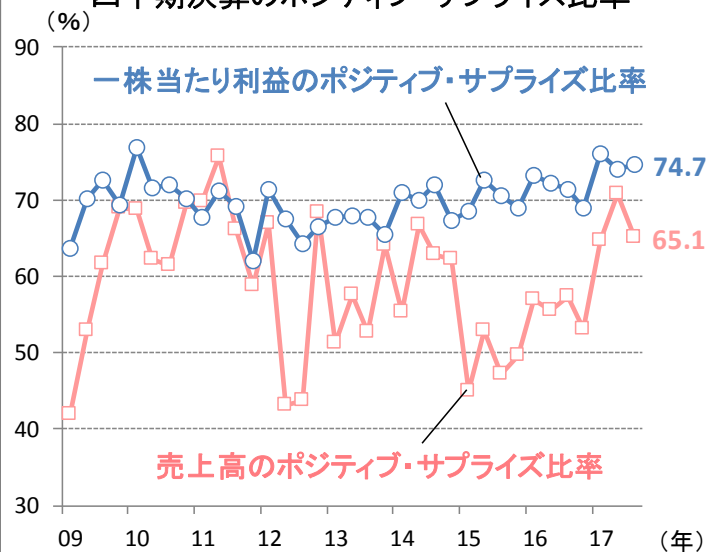
足元の米国株は2017年第3四半期の好調な米企業決算に支えられ最高値圏に上昇しています(一株当たり利益、売上高ともに市場予想を上回る傾向、図2)。議長交代に伴うFRBの穏健路線の継承は、金融環境の面でも米国株の下支え要因になると期待されます。

図1: 米国の実質GDP成長率の寄与度分解



(作成) レッグ・メイソン・アセット・マネジメント
(期間) 2015年1Q~2017年3Q

図2: S&P500指数採用銘柄の四半期決算のポジティブ・サプライズ比率



(作成) レッグ・メイソン・アセット・マネジメント
(期間) 2009年1Q~2017年3Q

(注) ポジティブ・サプライズ比率は一株当たり利益または売上高が市場予想を上回った銘柄の比率。2017年3Qは11月1日時点。

当資料は、レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社が作成した情報を基に受益者の皆様に提供する目的で日本アジア・アセット・マネジメントが作成した資料であり、投資の勧誘を目的としたものではありません。当資料中のいかなる事項も、将来の運用成果等を保証あるいは示唆するものではありません。投資した資産価値の増減は全て受益者の皆様に帰属します。投資信託をお申し込みの際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。 IT500021NT171102C